

1 学習に取り組んでいる主な分野

<input type="checkbox"/> 生物多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 海洋	<input checked="" type="checkbox"/> 防災・減災	<input type="checkbox"/> 気候変動
<input type="checkbox"/> エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 環境	<input type="checkbox"/> 文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 世界遺産・文化財
<input type="checkbox"/> 国際理解	<input checked="" type="checkbox"/> 平和	<input type="checkbox"/> 人権	<input type="checkbox"/> ジェンダー平等
<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 生産と消費	<input type="checkbox"/> その他 ()	

2 ユネスコスクールとしての活動の概要

本校は「地域とのつながり、直接体験の重視」を活動テーマとして、E S Dをユネスコスクールが重点的に取り組む3つの分野を通して、持続可能な将来が実現できるような価値観と行動の変革をもたらすことと捉え、E S Dの実践を通して「人」とのつながりから、共生社会の生き方について考える力の育成を目標とした。環境・エネルギー、地域遺産・世界遺産、人権・福祉を柱に、①高齢者や障がいをもった方との交流学习、②身の回りの環境に関わる活動、③地域の文化遺産に関わる学習を行った。



3 特徴的な活動事例の紹介

○ 地球市民および平和と非暴力の文化に関わる学習

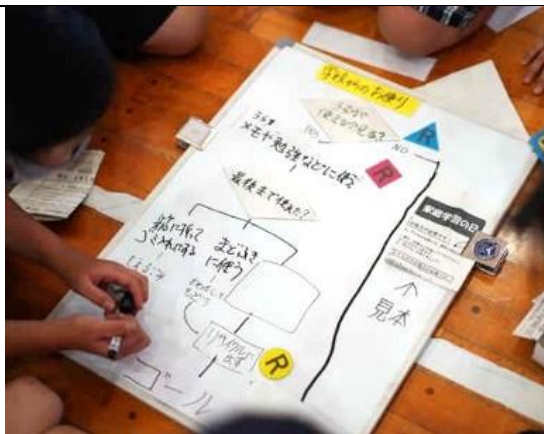
福祉教育との関連から、点訳ボランティアの方や目の不自由な方との交流を通して、苦労や努力、工夫や願いを知り、目の不自由な方と共に生きるためのまち作りやユニバーサルデザインなどについて調べる学習を仕組んだ。この学習を通して、みんなが安心して暮らせるようにできることを考え、いろいろな人と進んで関わりをもとうとする気持ちを育てることができた。

また、6年生では、修学旅行を通して長崎に落とされた原爆の恐ろしさや、平和の尊さを学び、世界中の人たちが平和に暮らしていけるようにすることについて考えたり、自分の考えについて新聞づくりを通して発信したりした。



○ 持続可能な開発および持続可能なライフスタイルに関わる学習

自分たちの生活の中からごみ処理やリサイクルについての課題を見つけ、日常生活で出てくるごみを減らすためにできることについて調査活動を行い、ごみを減らすための工夫を考え、行動を具体化するために、プログラミング的思考を働かせ、生活にいかすことができるように学習を仕組んだ。この学習を通して、ごみを減らす行動をできるだけ具体化させるために、フローチャートで整理し、実践意欲を高めることができた。



○ 異文化学習および文化の多様性と文化遺産の尊重に関わる学習

家族や地域の人にインタビューしたり、詳しく調べたいことについて学習計画を立てたりしながら、自分が選んだ大牟田のよいところについて調べる学習を行った。また、大牟田の行事・名所・特産物などをまとめて交流する活動を通して、郷土のよさに気づき、それらを知ってもらいたいという郷土を愛する心情を育てるようにした。さらに、地域に残る文化遺産を実際に見たり、パンフレットや本などの資料から調べたりしたことを、工夫して表すことができた。また、今年度6年目となる、「地域を花と挨拶でいっぱいにする」ための、～銀水花いっぱい‘絆’プロジェクト～について、地域住民やPTAと連携して取り組んだ。校区のまちづくり協議会の方を中心に連携して、地域とのつながりを意識することができた。子どもたちのために花壇を手入れしてくださったことを知り、子どもたちは郷土への愛着が高まり、地域の方々への感謝の気持ちを一層高めることができた。



3 今後の活動計画

令和6年度は、ESDにおいてさらに、「価値観の変容」「行動化」を柱とした体験活動や探究活動を充実させていきたい。そのために、

1. 子どもの実態を把握し、身の回りのことから視野を広げ、未来につながる行動をしていく児童を育てるカリキュラムを見直す。
2. 各教科・領域等で身につける内容を生かしたESDを推進できるようにする。
3. 子どもたちが自分事として問題に取り組むためのストーリーマップを作成し、教職員で共通理解・共通実践できるようにしていく。
4. 地域とつながりができるように、ICTを活用して実践事例を蓄積していく。